



WE21 ジャパンこうほく ニュース

特定非営利活動法人WE21 ジャパンこうほくは リユース・チャリティショップ「WEショップこうほく」をボランティアで運営し、その収益でアジアの女性たちが自立して暮らしていけるよう民際支援活動をしています。

発行 認定NPO法人WE21 ジャパンこうほく 港北区日吉 2-12-7 TEL/FAX 045-563-1808 2016年3月

<http://we21kk.org>

WE21 ジャパンこうほく



NO. 118

『2016 チョコ募金』キャンペーンにご協力ありがとうございました！

例年チョコ募金キャンペーンに合わせて開いていた JIM-NET 事務局長の佐藤真紀さんによる現地報告会を、今年は規模を拡大して1月21日(木)1:30~4:00 スペース・オルタにて「イラク、シリア、そしてフクシマー 佐藤真紀 現地報告&ステージ『その空は何いろ』」と題して開催しました。横浜のWE21 ジャパングループ7地域の協賛も得て120席は満席となり、イベント終了後も佐藤さんを囲んで熱心な質問がとびかいました。

§講演

登壇された佐藤さんは白地に青い大きな柄のジャケット姿。コーディネーターのWE21 ジャパン・旭の成瀬代表からすかさず質問が。難民キャンプの破れたテント地を現地の洋服屋さんに仕立ててもらったそうです。このあとも名コディネートと大画面の画像や動画とで、チョコ募金ができるまでの経緯やチョコ缶の絵を描いた少女たちの写真や難民キャンプの様子が紹介され、子どもたちの泣き声など胸に迫るものがありました。そしてこのイベントの前々日まで現地にいた佐藤さんの報告に質疑応答が続きました。佐藤さんからは、私たちは国際的な支援団体のできないような隙間支援をしたり、大きな団体同士をつなぐ役割を果たしているとの力強い言葉をいただきました。

お話をする JIM-NET 事務局長の佐藤真紀さん



§ステージ『その空はなに色』

朗読は、ステージタイトルのヒントになった高田敏子さんの詩「夕焼け」や未だ困難な状況にあるイラクの子どもたちが東日本大震災を受けた日本へ書いてくれた応援メッセージ、バレンタインデーにまつわるエピソードをこうほくの会員やボランティアメンバーが切々と披露しました。合唱はスペース・オルタ近隣の城郷中学校 PTA コーラスのみなさんが、世界中のどの子にも優しいおめざがあるようにと願う「大地の子守歌」を温かく歌っていただきました。演奏はこうほくの砂田代表のバイオリンを筆頭に、オルタフルートアンサンブルメンバーやこうほく・旭・本部メンバーのストリングスやピアノで特別アンサンブルを結成。砂田俊彦さん編曲の「平和の祈り」メドレーで



ピアノと管弦楽器のアンサンブル



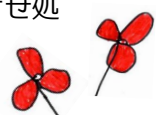
コーラス「しろさと」の皆さん

モルダウ〜フィンランド〜ふるさとを演奏し、ふるさとはコーラスメンバーと会場のみなさんで合唱してステージを締めくくりました。観客からは、ステージがあったことで講演内容がより胸に刻まれた、朗読や音楽の力をあらためて感じたという感想をいただきました。

今回も多くの方々のご支援で430,377円の募金を JIM-NET に託すことができました。募金はイラクのがんや白血病の子どもたちへの医療支援、シリアやイラクの難民や妊婦さんへの支援、ヨルダンの内戦負傷者支援、福島の子どもたちを放射能から守る活動に使われます。今年はバレンタインデーの本当の意味を知りました。結婚を禁じられた兵士たちに愛を取り戻させようと若者たちを結婚させ刑されたバレンタイン神父。平和は武器ではもたらされないという佐藤さんの言葉とともに一年を通じて平和を祈り続けたいと思います。

	大倉山店	日吉店
チョコ・カード募金	230,000	177,500
期間中店頭募金	18,046	4,831

合計 430,377 円を JIM-NET に寄付しました



支援先の様子とプロジェクトについてお知らせします

カンボジア・スバイリエン州コンボンロー郡タナオコミュニティ

タナオコミュニティはベトナムとの国境に隣接している貧しい農村です。小学校低学年は家族とともにベトナムに行き物乞いや物売りに、高学年になると縫製工場や建設現場での仕事を斡旋されて学校を中退して村を出ていく子どもがあとをたちません。

国境を越えてベトナムへ不法な出稼ぎに行くこの地域で児童労働・人身売買を防ぐための啓発活動をスタートしたのは2012年でした。2年目には大人たちへの生活上支援も行いながら、2014年には日本のNPOの支援でコミュニティセンターを建設し、村での生計向上事業は別団体の農業組合を設立して連携しながら活動することになりました。コミュニティセンターを拠点にして2年、啓発活動や子どもたちの自主活動が活発におこなわれています。

農業組合による生計向上事業は啓発活動とともにコミュニティの大切な事業です。



WE21 ジャパンこうほくでは、子どもたちの啓発活動をおこなっているシーライツ（国際子ども権利センター）と農業組合活動をサポートし農業指導などをおこなっているCAE（The Center for Actions towards Equality）の2つの団体を支援しています。

☆子どもたちが物乞いに行かされたりしないためにどんな活動をしているのでしょうか

コミュニティセンター運営スタッフを中心に地道な活動が行われています。子どものための図書室では、これまで本に親しめなかった子どもたちが自由に本を読むことができるようになりました。ドラえもんはここでも一番人気の漫画です。最近は要望に応じて本の貸し出しも行っているそうです。図書室の隣にはアクティビティルームがあり、クメール語の読み書きを教えたり、子どもクラブのミーティングをしたり、学校に行かなくなった子どもも参加できる場になっています。

ピア・エデュケーションの様子



啓発活動は、学校を拠点として活動する児童・生徒の代表（ピア・エデュケーター）が**子どもの権利、違法な出稼ぎ・児童労働・人身売買の危険**について学びます。そしてピア・エデュケーターが学んだ知識を、ほかの子どもたちに伝えて活動を広めていく「ピア・エデュケーション」という手法をとっています。また、子どもクラブ（村単位で、活動する子どもたちのグループ）を結成し、地域の子どもたち同士が助け合い、安全で住みやすい地域をめざす活動を行っています。



農業センターの式典に参列する200名の組合員

タナオコミュニティの子どもたちを見守りはじめて今年で5年目。啓発活動や学びあう機会を持つことで、自分で考える力をつけ、着実に成長している様子を感じます。農業組合も農業センターが建設され、協同して販売までできるようにするを目標して組合員が年々増えています。農業組合の運営を学び事業が自分たちで進められるようCAEがサポートしています。

タナオコミュニティの子どもたちの成長を一緒に見守っていきましょう。

*認定NPO法人シーライツ（国際子ども権利センター）支援金額 352,590円+募金額 10,685円

*CAE（The Center for Actions towards Equality）支援金額 252,590円+募金額 15,884円

フィリピン・ベンゲット州トゥブライ町アンバサダー村コロス集落

コーヒーの森で災害に強い村を作る

2009年9月大きな台風「ペペン」がフィリピンを襲い、農業を生計手段としていたルソン島ベンゲット州トゥブライ郡コロス集落の人たちも大きな被害を受けました。もともと地盤が弱いため、台風が来るとがけ崩れで道路が寸断されたり、畑の作物が流されてしまい収穫不能になってしまうのです。

「コーヒーの森づくり事業」は先住民族のコロス集落の人たちが「森林への植樹による環境回復」と「換金作物のコーヒー栽培による生計向上」が行えるように現地NGOコーディネエラ・グリーン・ネットワーク（CGN）が技術指導している事業です。植樹をして地面に木の根がはることで地盤を強化し、木の根もとにコーヒーを植えることで換金作物を作れるようにすることが目的です。（右上へ続く）➤

2010年10月からの支援事業のおかげでコロス集落ではコーヒーの苗木が育ち、収穫も始まっています。しかし、この地方は乾季には水不足となるため、2015年度末に水タンクの建設をしました。

また、2015年10月には「ペペン」ほどではありませんが「ランド」という台風におそわれました。コーヒーの苗木や野菜畑も被害を受け、家を失い再定住地に移住せざるを得ない人もいました。森林を豊かにすることでの「災害に強い村づくり」は一層必要です。



台風被害に遭い、柱だけ残った家



コロス集落にて 2015.11.モニタリングツアー

事業の成果が実っています

さて、嬉しいニュースとして、コロス集落のあるアンバサダー村が2015年のトゥブライ郡のコーヒーコンテストで優勝しました。最近ではコロス集落にはコーヒー栽培のノウハウを学ぶためにほかの村からも見学者が訪れるそうです。当初は10人程度だったコロス集落の受益者も33名まで増えました。山火事や台風に見舞われながらもコロス集落での成果がでていることは、ほかの集落への刺激となっています。2016年度はコロス集落の隣のタビヨ集落への指導も始まります。「コロス集落で作ったコーヒー」を飲めるようにこれからも応援していきましょう。

*環境 NGO コーディリエラ・グリーン・ネットワーク (CGN) 支援金額 410,000 円

インド・西ベンガル州 パールナ県パトールプロティマ地区 及び ハウラ県バグナ地区

2月12日から19日までインドモニタリングツアーに参加しました。

農村地域女性のエンパワーメントを目的とする既存プロジェクトの追加活動(3か年計画の2年目)の視察です。受益者はバグナン区7つの村の15グループとパトールプロティマ区3つの村の15グループで、カースト外の貧困層、少数民族、土地を持っていない農民たちです。農業の日雇いで生計をたてていて、プロジェクトが始まる前までは、女性たちは水汲みや飼いや葉集めなど重労働を強いられていました。女性の自立を高めるため、現地 NGO はまずグループを作り、グループ貯蓄から始めていきました。

DRCSC プロジェクトではそれぞれのグループの希望に合わせて研修を行っています。

ドッキンシブール村訪問

補助金制度の周知、申請書の書き方を研修

今年度は政府スキーム、パッケージ、ケーシ織作品、薬草加工などの研修が行われました。政府スキームでは政府の補助があることを知らない女性達にどんな補助があるのか教え、実際に申請の仕方を研修しました。100日労働で働いたのにお金をもらえなかった人がお金をもらうことができるようになり、また出産祝い金・年金の申請などをすることができました。バグナンのケーシ織グループでは、織の品質が向上して丈夫になったため住民への売れ行きも向上しました。パトールプロティマでは自助グループの活動が活発になり、生産を担当するグループ・販売を担当するグループができ、1か月に1回、何をどれくらい生産し販売するかをリーダーミーティングで決めるようになりました。そして小規模収入の道が徐々に開けてきています。



パトールプロティマにて

順調だった栄養菜園が今年の洪水で・・・

昨年「栄養菜園がうまく行って収入が増えました」とにこやかに話してくれたオランパラ村の女性達。洪水被害にあってどうしているかしらと心配しましたが、田畑は復活して女性達も元気でした。屋根の上にテントをはり15日間避難しそのあと学校に避難して手足は皮膚疾患になり大変な状況だったそうです。「WEの支援をいただいて大変感謝しています。WEの人たちが来てくれて元気になる。」と言われ、私たちもとても嬉しく感激しました。

現地を訪ねると学ぶことが多い 顔が見えることで応援したくなる

お互いに顔がみえて信頼関係が築けているからこそ、より有効に活動が進んでいくのだと実感しました。担当スタッフ達の生き生きとした熱心な指導にも頭がさがりました。自立を促すために全員に教えるのではなく数人にていねいに教え、教わった人が他の人に伝えていくというやり方もスタッフ達の熱意があつてこそだと思いました。インドでたくさんのことを学ぶことができました。

*Development Research Communication & Services Centre (DRCSC) 支援金額 320,000 円

3.11 を忘れない

東日本大震災から 5 年を迎える今年ですが、震災復興も福島原発事故処理も、長い道のりの、ほんの入り口にいるかのようです。WE21 ジャパンこうほくでは、とりわけ原発事故被災地への支援に注力し、3.11 を風化させないためのキャンペーンを、7月・9月・11月のそれぞれ11日に実施してきました。“いわき食彩館スカイストア”から取り寄せた福島産品を大倉山店・日吉店に並べ、お客様に関心を持っていただくきっかけとしました。この3月は1日からキャンペーンに取り組み、**檜葉町のお母さん**が手作りするストラップでの募金も行いました。



写真提供：ふくしま支援・人と文化ネットワーク

福島の子どもたちが受けている放射能汚染の影響を減じる事業にも支援を続けてきました。昨年は、「福島子ども・こらっせ神奈川」による保養活動支援に加えて、「ふくしま支援・人と文化ネットワーク」が実施する心のリフレッシュ事業も支援しました。これは、保育園や幼稚園、障がい児(者)の施設等で影絵の公演を行うことで、子どもたちが文化に触れる機会を提供するものです。影絵を届けるのは1963年結成の「あけびの会」。子どもたちは目を丸くして、食い入るように影絵を見つめていたそうです。

「3.11 を忘れない」キャンペーンは今後も継続していきます。

第 12 回通常総会のご案内

2016年5月24日(火)

総会：午後1時半～

記念講演：午後3時～

「チャリティショップ・WEショップの可能性(仮)」

於 港北公会堂 2階 第2会議室

日本チャリティーショップ・ネットワーク共同代表の贅川恭子さんにお話ししていただきます。ぜひご参加下さい！



第 9 回小さなまちの小さな平和展

3月7日～12日(月～土)
大倉山ギャラリーかれんにて

「一人一人が大切にされ、命や環境が損なわれない平和な社会を願う」8 団体が呼びかけあって開催され、今年は「若い人たちと選挙」のお話と交流会や安保関連法制(戦争法)廃止2千万人署名も行われました。

WEショップこうほくのコーナーではエコ手袋や復興支援ストラップ、フェアトレード品のコーヒーやジンジャーティ、アシーラ石鹼を並べ、フィリピンの「コーヒーの森づくり事業」モニタリングツアーの掲示をして活動をアピールしました。



アシーラ石鹼を使いましょう フェアトレード品のご紹介

忘れないでパレスチナ



イスラエル建国により追われて逃げてきた先が難民キャンプ。アシーラ女性組合は2004年、西岸地区デヘイシャに設立されて10年以上になります。人口密度が高く、スラム化した住居での生活がもう60年も続いています。仕事も少なく、男性は苦勞して出稼ぎにでて生計を立てていますが、旅券を手に入れるのも難しい状態です。国連からの配給も今は生活困窮者のみとなり、石鹼の収入は現金収入として貴重です。また、最近では国際社会からの支援もシリアへ行き、支援金も減ってしまいました。組合員は新製品を考え、ベツレヘムの土産物店で販売したり、地元バザーに出品しています。



一番搾りのオリーブオイル 100% で手作りされている石鹼に、新しく死海のミネラル豊富な塩を配合した石鹼が生まれました。